學校醫は、傳染病の流行を豫防し、諸種の處置の一般監督について責任を有するものである。必要なる日々の監督は適法の看護婦、又は完全なる經驗をもつてゐる年長の職員によつてなさるべきである。年少者又は無經驗なものに委ねてはならない。

疑はしい場合には、醫學的の處置を施すと同時に隔離すべきである。疑似傳染病についての檢査處置は、學校醫によつてなし、地方醫によるの便宜もある尙これ等傳染病の診斷については、保育學校は、一層有效なる系統的な方法を講じなくてはならぬ。であるから適當にして安全な保護法が講じられるまでは保育學校は、地方學事當局者に於て許可しない方がよいのである。

—(以下次號)—

○子供の机と腰かけ

醫學士　岡田道一

(前略)不良な机または腰掛からくる身體上の影響を說明しやう。

(イ)脊柱彎曲　この病氣はたしかに不良の机または腰掛けによつて生ずる事は著明な事實である。脊柱が彎曲すると呼吸が淺くなり。血の循りが惡くなり或ひは消化吸收不充分になる。卽ちそれは脊柱が後彎になると肺尖の部分を壓迫して肺を弱めたりまた同じく左彎、右彎となると心臟を右や左に壓しつけるからである。脊柱彎曲は肺病や心臟病の下地を作るやうなものである。

(ロ)胸廓の不正　机腰掛が不適合であると胸が壓迫されて從つて扁平胸とか鳩胸とかになり易い、こんな胸は呼吸に關係があるから將來肺結核になりやすい下地を作るといふべきである。

(ハ)起立性蛋白尿または腎臟炎　不適合な机や腰掛けの爲腰椎が丸くなり、そのため腎臟が壓迫されてこの病氣を起すのである。

(ニ)近視　いはゆる近眼である。この原因の一として机や腰掛けの不適當のため目を近づけて書物を見る事もかぞへられるのであるその他この原因として机の置き場所にも關係がある光線の充分に入らない薄暗い所に机を置いておくと近視の原因になりやすいから机はなるだけ明るい場所に置かなくてはならぬ。その爲電燈の光などでは机の左方からとつて手暗がりにならぬやう注意せねばならぬ。

(ホ)その他の病氣　以上のほか足をぶらんとさせたり腰掛の角で

一六三頁へつゞく

は、家庭自身が幼稚園と人間的なしたしみの關係にならなければ、ほんたうの教育は到底できないといふことである。子供を幼稚園におくることは子供を中にして家庭と幼稚園兩方が相抱く樣にして教育して行くことにほかならない。しかるに子供は幼稚園でたのしんでくるが家庭は幼稚園とあかの他人であるといふやうな冷痰な關係であつては、決してよい教育はできないのである。（東京日々新聞）

押したりすると足が腫たりはげしい神經痛を發したりする。また腹部を壓迫するから消化器の病氣も起りやすい、さて以上のやうな病氣を豫防するのは別に難事ではない、たゞ姿勢を正しくして机腰掛の適當なのをえらべばよいである。文部省の學校用机、腰掛の構造はすでに、明治二十六年に三島通良博士の研究で作られてある。それは兒童の身體の發育の程度に合ふやうに作られたので普通小學校で用ゐるものは一號から五號の机及び腰掛けがある。凡そ六歳の兒童に一號の机を、七八歳の尋常一二年の兒童に二號を、九歳、十歳の尋常三四年の兒童に三號を、十一歳十二歳の尋常五六年の兒童に四號を、十三歳十四歳の高等小學の兒童には五號をといふ事になつてゐるが元來年齢の如何に拘らず身長の高低によりてこれらの机を使用してよいのである卽ち腰掛の高さは兒童の下脚の長さにひとしく、机の高さは腰掛の高さに肘から腰掛の面に至る距離に七分乃至一寸三分を加へたものになれば丁度よいのである。

然し中々さうおあつらへに寸法が行くものでないから、まづ洋式なら兒童が小學校に入る時の一號の机の高さの一尺五寸、日本式の机だけならそれから腰掛の高さを引いただけの七寸位の高さからはじめて、二年ごとに洋式の机なら一寸五分位づゝを日本式の机なら五分乃至一寸位づゝを高くする事が出來ればまづ理想的である一番によいのはチヂの如きもので、高低の調節自在の机、腰掛けでこれなら如何なる兒童でも適合させ得る。すでに英米の諸學校ではこの種の机を用いてゐると聞いたが、早くわが國でもこれを用ゐるやうになりたいものである。さて机が低過ぎたらどういふ害があるかといふに勢ひ前に俯するから近眼をさそひ、胸が机におされて呼吸が

一六五頁へつゞく

子と二人の子供が殘るまで續ける、然る後最後の勝敗を定む。

目的、筋肉の統制、注意

目かくし

子供は手をつなぎ大なる圓を作る、六人の子供を擇み圓内に入れ、一人の子供は目をかくし中心に立つ殘りの五人は輪を作る、短き歌によつて目かくしされた子供の外皆左にまわり歌の終ると共に止まる、中の目くらは五人の内の一人を捕へる、捕へられたものは目をかくし中に立ち、殘りの五人は外列に歸り、他の五人が擇まれて中の輪を作りかくして繰返す。

別法　歌止みて外圓のものは其まゝ内方に向いて止まり中圓の五人は離れ〳〵となつて捕へられざる樣に足音なく圓内を逃げまわる。

目的　遊戯精神の發達。

さまたげられるからよくない。反對に高過ぎたら座面が浮き腰になつて脊柱は右または左に彎曲する。殊に日本の机においてはうしろにもたれがないから身體の動搖が甚だしい。腰掛けが高い時は足が地に接しない爲大腿のうしろが「シビレ」を起したり、低過ぎると腹部の臟器が壓迫されて消化の障碍を示すものである。それから腰掛に付いてゐるもたれは必ず必要である。その爲め兒童の姿勢がみだれずにすむのである。また机の面は外國では必ず斜面となつてゐるが日本字を書くには却つて肘下りとなつて姿勢を惡くするからいけないとされてゐる。さて以上のやうに机にもまた腰掛けにも不備な點があつてはいけぬが、いかに適當な机でもこれによりかゝつたりなどしてはいけぬ。卽ち姿勢の訓練が行き屆かぬと何にもならぬ。腰を掛けた時上體は自然の直立をしてその重心が兩座骨結曲の中面に落ちる位置をとり、兩脚は自然に開き、兩下腿は垂直にし、兩足は平に床面を蹈んで、兩手は股の上に置き、目は前の方を正確に正視するのがよい姿勢である。その缺點を見出すのにはそれらの兒童の四方から觀察すれば一番よく分るのである。

—「日本兒童協會時方」より—